

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 3222 号	氏名	古川 傑
論文審査担当者	主査 砂川 正隆 教授 副査 末木 博彦 教授 副査 水野 克己 教授		
<p>論文題名：</p> <p>Suppressive Activity of Adiponectin on the Development of Allergic Rhinitis in Mice (マウスでのアレルギー性鼻炎発症におけるアディポネクチンの抑制効果)</p> <p>掲載雑誌名：</p> <p>In Vivo 33 巻 1 号 2019 年掲載</p> <p>(論文審査の要旨)</p> <p>アディポネクチンは脂肪細胞から産生、分泌されるアディポカインの一種であり、気道アレルギー炎症疾患を抑制することが報告されている。一方、神経ペプチド・サブスタンス P (SP) は、アレルギー性鼻炎 (AR) の臨床症状発現や遷延化に寄与する。しかしアディポネクチンの神経ペプチド産生に及ぼす効果は十分に検討されていない。そこで古川らは、アディポネクチンの SP 産生抑制について検討した。細胞実験では、各種濃度アディポネクチン存在下に PC-12 細胞を神経成長因子ならびにカプサイシンで刺激後、培養上清 SP 濃度を測定した。7.5ng/ml 以上のアディポネクチンで有意に SP 濃度が低下した。動物実験では、オボアルブミン (OVA) 感作マウスに各種濃度アディポネクチンを点鼻した後に、OVA 点鼻によって AR 症状を誘発し、鼻腔洗浄液 SP 濃度を測定した。10.0ng/ml 以上のアディポネクチン投与で、くしゃみ・鼻搔き回数、SP 濃度が有意に低下した。アディポネクチンは、SP 産生を抑制することで AR の症状緩和や遷延化を予防することが示唆された。本論文は本学大学院学位論文 (博士) 審査基準を満たし、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)